

IV 郷土資料館事業

1 展示

(1) 常設展示

富士山の信仰、富士山麓の動物・自然などの常設展示を行った。

(2) 企画展示

ア 「富士講と人穴」展（巻末資料 i）

期 間：平成 29 年 7 月 8 日（土）から平成 29 年 11 月 19 日（日）まで

内 容：人穴富士講遺跡と、そこを訪れた富士講の人々について紹介。

イ 「神戸麗山と富士宮」展（巻末資料 ii）

期 間：平成 29 年 12 月 9 日（土）から平成 30 年 3 月 25 日（日）まで

内 容：富士山の絵を多く残した幕末期の地方画家・神戸麗山の作品や暮らしぶりを紹介。



写真 29 「富士講と人穴」展



写真 30 「神戸麗山と富士宮」展

(3) その他の展示

ア 長屋門「歴史の館」（現在は閉館）

長屋門「歴史の館」では、「絹本著色富士曼荼羅図」の複製の展示や、富士宮市の歴史年表、世界遺産構成資産の紹介パネルなどの展示を行うとともに、富士宮市観光ボランティアガイドの会が常駐し、展示解説を行った。

(4) 展示会関連事業

ア 展示解説

各企画展示において、担当学芸員による展示解説を実施した。

表 3 展示解説実施一覧

展示会名	実施日	担当
「富士講と人穴」展	平成 29 年 7 月 8 日 平成 29 年 10 月 21 日	学芸員 松本将太
「神戸麗山と富士宮」展	平成 30 年 1 月 20 日	郷土資料館長 渡井一信

イ 「富士講と人穴」展関連講座

実施日：平成 29 年 9 月 9 日（土）

場 所：富士宮市民文化会館 練習室 1

講師・内容：渡井一信（富士宮市立郷土資料館長）

「史跡富士山人穴富士講遺跡調査報告書の刊行にあたって」

増田亜矢乃（元富士宮市教育委員会職員）

「人穴参詣と碑塔造立」

参加者：31 人

ウ 「富士講と人穴」展関連講演会

実施日：平成 29 年 11 月 18 日（土）

場 所：富士宮市民文化会館 第 3 展示室

講師・内容：大高康正（静岡県富士山世界遺産センター准教授）

「三重県伊勢・志摩地域の富士講と富士先達」

参加者：41 人



写真 31 「富士講と人穴」展 展示解説



写真 32 「富士講と人穴」展 関連講演会

2 資料収集・保存管理

(1) 資料収集

表 4 郷土資料収集品一覧

受入月	内容	収集方法
平成 29 年 4 月	民俗資料 7 点	個人寄贈
6 月	歴史資料 2 点	個人寄贈
9 月	戦争関係資料 17 点	個人寄贈
10 月	歴史資料 3 点	個人寄贈
	民俗資料 1 点	現地採集
	民俗資料 1 点	個人寄贈
11 月	歴史資料 一式	個人寄贈

	民俗資料 11 点	個人寄贈
12 月	民俗資料 6 点	個人寄贈
平成 30 年 1 月	歴史資料 5 点	個人寄贈
2 月	映像資料 14 点	個人寄贈
	歴史資料 4 点	個人寄贈

(2) 保存管理

ア 収蔵品くん蒸事業

日 時：平成 29 年 9 月 15 日(金)から 9 月 17 日(日)まで

場 所：被覆くん蒸（埋蔵文化財センター収蔵庫内）（富士宮市長貫 747-1） 約 40 m³
埋蔵文化財センター収蔵庫 約 600 m³
埋蔵文化財センター別棟 約 550 m³
柚野収蔵庫（富士宮市下柚野 361-1） 約 300 m³

内 容：埋蔵文化財センター収蔵庫内で、被覆くん蒸法により、薬品名エキヒューム S による殺虫・殺カビくん蒸を実施した。あわせて、埋蔵文化財センター収蔵庫・同別棟・柚野収蔵庫では、薬品名ブンガノンによる殺虫処理を実施した。
（施工業者：関東港業株式会社）

3 古文書等解読刊行事業

(1) 旧北山村役場文書刊行事業

旧北山村役場文書（富士宮市教育委員会所蔵）は、旧北山村の地方文書や北山用水関係資料などが含まれ、当時の富士宮市北部地域の生活を知る上で貴重な資料群である。今年度は昨年度までの調査成果を『旧北山村役場文書』にまとめ、刊行した。

書 名：『旧北山村役場文書』

編 集：富士宮市教育委員会

発行年月：平成 30 年 3 月

頁 数：口絵 4 頁、本文 193 頁

内 容：概説、各論（「寛永期以降の北山村支配者」、「北山用水と用水組合」）、文書翻刻（抜粋）、文書目録

頒布価格：1 冊 1,000 円（富士宮市教育委員会文化課及び埋蔵文化財センターで販売）



写真 33 旧北山村役場文書

V 歩く博物館事業

1 探索会

(1) 市主催探索会

第1回

日 時：平成 29 年 5 月 24 日（水）
場 所：上稲子地区「平家落人伝説の里をたずねるコース」
講 師：渡井一信（郷土資料館館長）
参加者：41 名

第2回

日 時：平成 29 年 10 月 31 日（火）
場 所：黒田・山本地区「山本勘助と俳人梅市の里をたずねるコース」
講 師：渡井正二（歩く博物館解説員）
参加者：40 名

第3回（巻末資料iii）

日 時：平成 30 年 3 月 14 日（水）
場 所：白糸地区「火伏念仏と内野区の歴史をめぐる特別コース」
講 師：松本将太（文化課学芸員）
参加者：20 名（定員制）



写真 34 探索会（黒田・山本地区）



写真 35 探索会（内野地区）

2 標柱・説明板整備

歩く博物館の S コース（上柚野・猫沢地区）と T コース（下柚野・大鹿窪地区）において、説明板 2 基、標柱 11 基の整備を行った。あわせて、老朽化した標柱・説明板の表示の修正を行った。また、C コースの芝山浅間神社説明板について、世界遺産の構成資産である人穴富士講遺跡との関連を示す説明板の建替を行った。



写真 36 標柱



写真 37 芝山浅間神社説明板

VI その他の事業

1 問合せ対応

富士宮市の歴史や民俗などに関する、市内外からの問合せに対応した。要請に応じ、講座等の説明・案内を行った。

2 小中学校総合学習への対応

市内小中学校の総合学習（富士山学習）の一環として、児童・生徒の訪問・質問に対応した。また、各学校を訪問し講話を行った。

3 講師派遣

(1) 富士山まちづくり出前講座

富士山まちづくり出前講座は、市民の自主学習の支援や市政の広報のために設けられたもので、平成 29 年度も文化課職員が講師となり、小学校や公民館において、「ふるさとの歴史を学ぶ」と題して講座を開催した。

表 5 平成 30 年度富士山まちづくり出前講座実施一覧

場所	対象	実施日	内容
第二中学校	生徒	平成 29 年 5 月 11 日	歩く博物館コース解説
第一中学校	生徒	平成 29 年 5 月 19 日	歩く博物館コース解説
柚野中学校	生徒	平成 29 年 7 月 7 日	学校区の歴史
駅前交流センター	一般	平成 29 年 7 月 21 日	幕末の富士宮
駅前交流センター	一般	平成 29 年 9 月 13 日	浅間大社の歴史
大富士中学校	生徒	平成 29 年 9 月 15 日	学校区の歴史
第一中学校	生徒	平成 29 年 10 月 5 日	総合学習質問への対応
柚野中学校	生徒	平成 30 年 1 月 13 日	学校区の歴史

VI 文化財調査

1 富士宮市内「火の見櫓」調査

(1) 調査の目的

昭和 20 年代から 40 年代にかけて、全国的に数多くの火の見櫓が設置された。当時の火の見櫓は、火災の早期発見、消防団の招集、地域内への警鐘の発信などに使われていた見張台としての役割を持つものであった。その後、各自治体による消防本部・消防署の機能拡充が進み、また電話の普及による通報体制の整備や、半鐘に代わりサイレンや防災行政無線などが取入れられたことなどにより、その役目を終えた火の見櫓も多い。

現在、それらの多くは老朽化や耐震安全性の問題から、あるいは設置場所の有効活用などの理由で撤去されている。一部ではその高さを利用して消防団が使用したホースの乾燥などに使われていたこともあったが、撤去されてウインチを用いたホース乾燥塔が代わりに設置される事例が増えている。また、残されたものについては役目を終えたのち、その存在さえも気付かれぬまま、ひっそりと佇んでいるのが現状である。

本調査は、平成 29 年度末（平成 30 年 3 月 31 日）現在で、富士宮市内に現存する火の見櫓 22 基を確認し、記録保存しようとして試みたものである。なお、過去に存在した火の見櫓についても、現在、富士宮市消防本部に保存される「消防団詰所台帳」※註 1 に記録が残る 47 基（記録写真をもとに確認した 2 基を含む）をその対象として取り扱った。

(2) 富士宮市における「火の見櫓」の呼称

火の見櫓については、その脚部だけをとっても、半鐘を吊り下げるだけの「一本脚型」や、梯子だけの「二本脚型」から、見張台を設けた櫓状となる「三本脚型」、「四本脚型」と多くのバリエーションが存在する。また、全国各地方によってその呼称も違っているため、本稿では富士宮市の「消防団詰所台帳」にある「望楼」と「半鐘塔」の 2 つに分類した。※註 2

(3) 富士宮市に現存する「火の見櫓」

平成 29 年度末において、確認できた「火の見櫓」は 22 基である。（表 6 『富士宮市内に現存する「火の見櫓」一覧』・図 4 『富士宮市内に現存する「火の見櫓」分布図』・図 5 『富士宮市内に現存する「火の見櫓」（写真）』）これら 22 基のうち 15 基を「望楼」（A）、7 基を「半鐘塔」（B）として分類した。※註 3

ここで言う「望楼」は火災の早期発見を主目的として見張台を持つ櫓状のもので、周辺部に見通しが効く場所を選んで建てられており、その高さは概ね 10m 以上のものであることから、支える脚はすべて「四本脚型」である。

一方、「半鐘塔」は、その脚が「一本脚型」、「二本脚型」、「三本脚型」、「四本脚型」があり※註 4、基本的に見張台を持たないものである。半鐘の打鐘による消防団の招集、地域内への警鐘の発信などを主目的に建てられたものと理解する。

(4) 富士宮市に現存する「火の見櫓」の分類

A 望楼

現存する望楼 15 基を材質、脚・屋根（避雷針・風向計は不定）・見張台の形状等の特徴から細分類した。

A-1 (8 基)

材質は鋼材で脚 4 本、屋根があり、円形に巡らす見張台が 1 カ所あるもの。

- ①上小泉 (NO. 3) ②神成 (NO. 4) ③元村山 (NO. 6) ④北山横道 (NO. 8)
⑤北山中井出 (NO. 10) ⑥上条上区 (NO. 12) ⑦上井出上宿 (NO. 14) ⑧原 (NO. 20)

A-2 (2 基)

材質は鋼材で脚 4 本、屋根があり、円形に巡らす見張台が 2 カ所（2 層）あるもの。

- ①星山 (NO. 2) ②下条妙蓮寺前 (NO. 11)

A-3 (1 基)

材質は鋼材で脚 4 本、屋根があり、方形（箱型）の見張台が 1 カ所あるもの。

- ①荻平 (NO. 17)

A-4 (2 基)

材質は鋼材で脚 4 本、屋根があり、方形の一方向に張り出す見張台が 1 カ所あるもの。

- ①人穴 (NO. 16) ②猪之頭上村 (NO. 18)

A-5 (1 基)

材質は鋼材で脚 3 本、屋根があり、方形の一方向に張り出す見張台が 1 カ所あるもの。

- ①富士丘 (NO. 19)

A-6 (1 基)

材質は鋼材で脚 4 本、屋根がなく、円形に巡らす見張台が 1 カ所あるもの。

- ①北山辻坂 (NO. 9)

B 半鐘塔

現存する半鐘塔 7 基を材質、脚、梯子の有無等により細分類した。

B-1 (1 基) 材質は鋼材で脚 3 本、屋根があり、半鐘まで梯子有り。

- ①広見 (NO. 15)

B-2 (1 基) 材質は鋼材で脚 1 本、梯子なし。

- ①石原 (NO. 5)

B-3 (1 基) 材質はコンクリート柱 1 本、半鐘まで梯子有り。

- ①北山東下組 (NO. 7)

B-4 (3 基) 材質はコンクリート柱 1 本、半鐘までステップボルト。

- ①外神和田 (NO. 1) ②上精進川 (NO. 13) ③熊久保 (NO. 21)

B-5 (1 基) 材質は木柱 1 本、半鐘までステップボルト。

- ①西山 (NO. 22)

(5) 富士宮市内において撤去された「火の見櫓」

現在は既に撤去された「火の見櫓」で富士宮市「消防団詰所台帳」に記録が残るものは 46 基であった。その他、記録写真から確認できたもの 1 基があるため、今回の調査で確認

できた既に撤去された「火の見櫓」は 47 基であった。（表 7『富士宮市内において撤去された「火の見櫓」一覧』・図 6『富士宮市内において撤去された「火の見櫓」分布図』・図 7『写真に残る富士宮市内の撤去された「火の見櫓」』）※註 5

これら 47 基の内訳は、富士宮市「消防団詰所台帳」の記載から、「望楼」が 37 基、「半鐘塔」が 10 基であった。

(6) むすびに

「火の見櫓」の多くは老朽化や耐震安全性の問題から、既に撤去されたものがほとんどである。今回の調査で確認した大小 22 基の「火の見櫓」についても、今後、安全性の立場から撤去に向けた議論が進むと考えられる。旧芝川町管内の資料が不明なため、全富士宮市の立場からは悉皆調査に至らなかったが、こうした時点での調査であるから、遅きに失したと思う反面、貴重な資料として記録保存の措置がとれたことは、次世代への継承という視点から有意義なものであった。

（調査者：郷土資料館長 渡井一信）

(脚註)

※註 1 この台帳は、消防団詰所が各自治体により設置されるものであることから、富士宮市の財産台帳として記載されたものである。したがって、平成 22 年 3 月に旧芝川町と合併する以前の富士宮市管内の台帳と旧芝川町管内の台帳が存在したものと考えられるが、現在、合併以前の富士宮市管内の台帳は確認できるものの、旧芝川町管内の台帳は確認されていない。

※註 2 富士宮市「消防団詰所台帳」は、昭和期（昭和 50 年代中頃の調査か）に作成されたものと、平成期（平成初期～平成 10 年代前半）に作成されたものが存在している。昭和期の台帳には、「望楼」と「火の見」があり、平成期の台帳には「火の見」と「半鐘塔」に分類されていた。両者の分類の基準に従えば、昭和期台帳の「望楼」と平成期の「火の見」が一致し、昭和期台帳の「火の見」は平成期台帳の「半鐘塔」に当たる。

なお、今回、確認できた「火の見櫓」69 基のほとんどは昭和期の台帳に記載されたものであるが、平成期の台帳のみに記載がある 1 基、及び現地踏査で新たに発見した 5 基と台帳以外から写真が確認された 2 基（計 8 基）は、昭和期・平成期の台帳に記載が見られなかった。

※註 3 各個体の詳細は『平成 29 年度未指定文化財調査事業 富士宮市の「火の見櫓」調査票』（富士宮市立郷土資料館、2018）による。

※註 4 「火の見櫓」の「脚 4 本型」はほとんど「望楼」であるが、唯一の例外として、宮町にあったもの（撤去）は「四本脚型」だが、見張台を持たないものとして記録されている。また、今回の現地調査で新たに「一本脚型」のものが発見されたが、これらは台帳にないものであった。

※註 5 表 6『富士宮市内に現存する「火の見櫓」一覧』の登録番号を NO. 1～NO. 22 としたので、表 7『富士宮市内において撤去された「火の見櫓」一覧』の登録番号を NO. 101～NO. 147 とした。

（参考文献） 「消防年報 平成 29 年度版」（富士宮市消防本部、2018）

「火の見櫓 地域を見つめる安全遺産」（火の見櫓からまちづくりを考える会、2010）

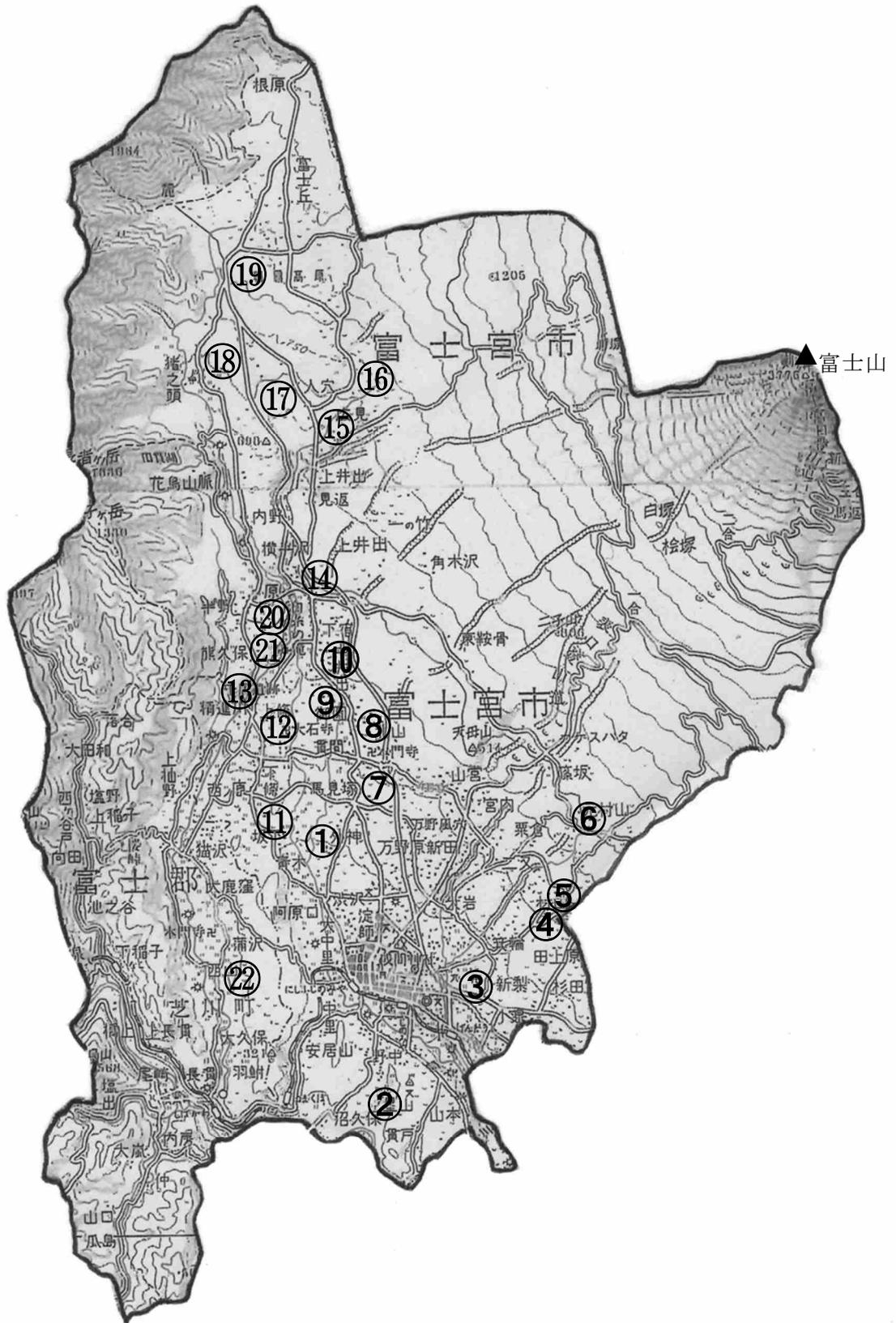


図4 富士宮市内に現存する「火の見櫓」分布図

1 外神和田	2 星山	3 上小泉	4 神成	5 石原
				
6 元村山	7 北山東下組	8 北山横道	9 北山辻坂	10 北山中井出
				
11 下条妙蓮寺前	12 上条上区	13 上精進川	14 上井出上宿	15 広見
				
16 人穴	17 荻平	18 猪之頭上村	19 富士丘	20 原
				
21 熊久保	22 西山	※1 馬飼野牧場内	※2 市役所内	
				<p>※1 内野川久保の望楼を昭和50年代に移設保存。※2 平成17年、第5分団詰所の移転を機に、附帯する火の見櫓(望楼)を市役所東南隅にモニュメントとして保存。</p>

図5 富士宮市内に現存する「火の見櫓」(写真)

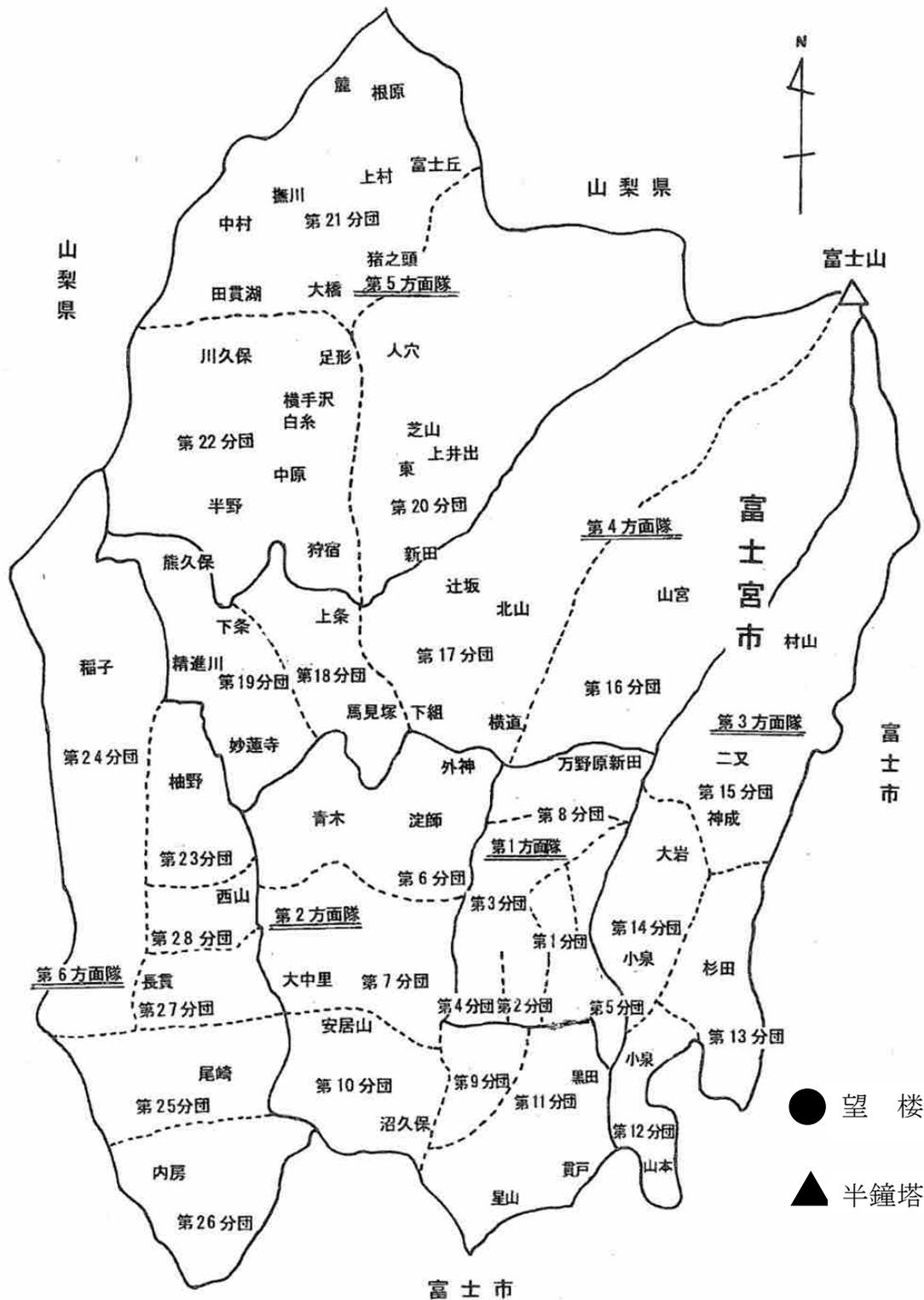


図6 富士宮市内において撤去された「火の見櫓」分布図

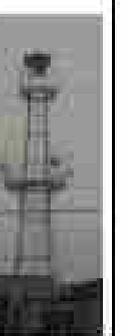
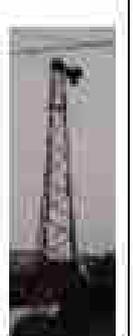
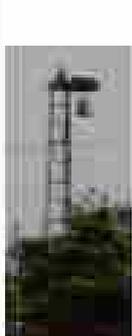
101 中央町	102 大宮町	104 西町	105 東町	105 茂平町	107 香木	111 野中	112 柏久保
							
114 安房山	115 安房山 駅前	118 小野一 区	120 小島	122 石原	124 山宮	125 北山下 前	128 上米下 前
							
129 横瀬川	130 下高土 区	131 上井田 新田	133 上井田 東	135 南之郷 大橋	137 南之郷 中村	138 南之郷 横川	139 藤
							
140 横原	141 狩野	142 半野	143 佐折	144 横手西	146 尾形	147 内開	
							

図7 写真に残る富士宮市内の撤去された「火の見櫓」

○有															
No	地区名	所在地	形態	高さ	材質	脚	屋根	見張台	半鐘	銘板	信号表	避雷針	サイン	同報無線	備考
1	外神和田	外神682	半鐘塔	5.5m	コンクリート柱	1			○						
2	星山	星山602-1	望楼	15.6m	鋼材	4	○	○	○			○	○		
3	上小泉	小泉1558-2	〃	11.8m	〃	4	○	○	○		○	○		○	
4	神成	村山55-34	〃	12.3m	〃	4	○	○	○			○			
5	石原	村山94-2地先	半鐘塔	3m	〃	1	○	○	○			○			
6	元村山	村山1242-4	望楼	16.2m	〃	4	○	○	○			○		○	
7	北山東下組	北山5036-2	半鐘塔	5m	コンクリート柱	1			○						
8	北山横道	北山4536-1	望楼	18.5m	鋼材	4	○	○	○			○			
9	北山辻坂	北山3310-1	〃	14.3m	〃	4	○	○	○		○				
10	北山中井出	北山2831	〃	7.9m	〃	4	○	○	○			○			昭和43年建設
11	下条妙蓮寺	下条719	〃	18.5m	〃	4	○	○	○			○	○		昭和29年建設
12	上条上区	上条1557	〃	10.7m	〃	4	○	○	○	○		○			昭和30年建設
13	上精進川	精進川129-5	半鐘塔	8m	コンクリート柱	1			○						
14	上井出上宿	上井出354-2	望楼	9.0m	鋼材	4	○	○				○			
15	広見	人穴511-1	半鐘塔	6.2m	〃	3			○			○			昭和32年建設
16	人穴	人穴121-3	望楼	7.4m	〃	4	○	○	○						
17	荻平	人穴756-87	〃	7.6m	〃	4	○	○	○				○		
18	猪之頭上村	猪之頭634	〃	11.0m	〃	4	○	○				○	○		
19	富士丘	根原452	〃	8.6m	〃	3	○	○				○			
20	原	原932-1	〃	13.0m	〃	4	○	○	○		○	○			
21	熊久保	半野583-2	半鐘塔	9m	コンクリート柱	1			○						
22	西山	西山347	〃	6.75m	木柱	1			○						

表6 富士宮市内に現存する「火の見櫓」一覧

														○有 - 不明
No	地区名	所在地	管轄 消防団	形態	高さ	材質	脚	屋根	見 張 台	半 鐘	避 雷 針	サイ レン	同 報 無 線	備 考
101	中央町	中央町2-1	第1分団	望 楼	11.7m	鋼 材	4	○	○	○	○	-	-	昭和38年建設
102	大宮町	元城町6-15	第2分団	"	12.7m	"	4	○	○	○	○	○	-	昭和7年建設
103	宮町	宮町1-1	第3分団	半鐘塔	12.4m	"	4	○		○	-	-	-	昭和41年建設
104	西町	西町10-6	第4分団	望 楼	11.9m	"	4	○	○	○	○	-	○	
105	東町	東町1201-4	第5分団	"	18.5m	"	4	○	○	○	○	-	○	現東町9-6
106	淀平町	淀平町50	第6分団	"	13.1m	"	4		○	○	○	-	-	
107	青木	青木1155	第6分団	"	13.5m	"	4	○	○	○	○	-	○	
108	外神	外神8-1	第6分団	"	13m	"	4	○	○	○	○	-	-	
109	大中里	大中里784-1	第7分団	"	13.7m	"	4	○	○	○	○	-	-	
110	万野原新田	万野原新田3993-9	第8分団	"	14.8m	"	4	○	○	○	○	○	-	
111	野中	野中552-6	第9分団	"	15.5m	"	4	○	○	○		-	○	昭和25年建設
112	沼久保	沼久保1-1	第10分団	"	-	"	4	○	○	○	○	-	-	昭和37建設
113	沼久保	沼久保1114	第10分団	半鐘塔	6.2m	"	3	○		○	○		-	昭和35年建設
114	安居山	安居山604-2	第10分団	望 楼	10.5m	"	4	○	○	○	○		○	
115	安居山別所	安居山894-3	第10分団	半鐘塔	6.2m	"	3	○		○	○		-	
116	黒田	黒田270-3	第11分団	望 楼	13m	"	4	○	○	○	○		-	昭和38年建設
117	山本	山本109-3	第12分団	"	15.1m	"	4	-	○	○			-	
118	小泉1区	小泉329-1	第12分団	"	17.6m	"	4		○	○	-	-	-	昭和27年建設か
119	杉田	杉田689-1	第13分団	"	15.8m	"	4	-	○	○		○	-	
120	小泉	小泉1880-1	第14分団	"	18.2m	"	4	○	○	○	○		○	
121	大岩2区	大岩997-1	第14分団	"	12.3m	"	4	-	○	○	○		-	
122	石原	粟倉2294-1	第15分団	半鐘塔	-	コンクリート柱	1	○	○	○	○	-	-	屋根・望楼部鋼材
123	二又	粟倉1291-7	第15分団	望 楼	12.3m	鋼 材	4	-	○	○			-	
124	山宮	山宮1573-1	第16分団	"	15.8m	"	4	○	○	○	○		○	
125	北山下組	北山823-1	第17分団	"	13.9m	"	4	○	○	○	○		-	昭和42年建設
126	北山上組	北山1529-4	第17分団	"	15.2m	"	4	-	○	○		○	-	
127	馬見塚	馬見塚400-1	第18分団	"	14.6m	"	4	-	○	○			-	
128	上条下	上条497-1	第18分団	"	-	"	4	○	○	○	○	○	-	
129	精進川	精進川436-1	第19分団	"	14.9m	"	4	-	○	○			○	
130	下条上区	下条436-1	第19分団	"	17m	"	4	○	○	○		○	○	
131	上井出新田	上井出135-1	第20分団	"	12.6m	"	4	-	○	○	○		-	
132	上井出東	上井出2233-3	第20分団	半鐘塔	9.5m	"	3			○			○	
133	上井出下村	上井出639	第20分団	望 楼	17.8m	"	4	-	○	○		○	-	
134	芝山	上井出880-2	第20分団	半鐘塔	8.9m	"	3	-		○			-	
135	猪之頭大橋	猪之頭1564	第21分団	望 楼	9.4m	"	4	○	○	○			-	
136	猪之頭中村	猪之頭160-4	第21分団	"	15m	"	4	-	○	○	○	○	○	
137	猪之頭中村	猪之頭416	第21分団	"	11.3m	"	4	○	○	○	○		-	五斗目木
138	猪之頭撫川	猪之頭488-1	第21分団	半鐘塔	7.4m	"	3	○		○			-	
139	麓	麓61-2	第21分団	"	5.5m	"	3	○		○			-	
140	根原	根原543	第21分団	"	5.3m	"	3	○		○			-	
141	狩宿	狩宿78-4	第22分団	望 楼	8.2m	"	4	○	○	○	○		-	
142	半野	半野218	第22分団	"	9.8m	"	4	○	○	○	-		-	
143	佐折	佐折57-1	第22分団	"	7.2m	"	4	○	○	○	-	-	-	
144	横手沢	内野22-1	第22分団	半鐘塔	7.2m	"	2			○			-	
145	内野川久保	内野327-3	第22分団	望 楼	13.3m	"	4	○	○	-	○	○	○	馬飼野牧場内移設
146	足形	内野1030-5	第22分団	"	8.3m	"	4	○	○	○			-	
147	内房	内房3212-3	第26分団	"	-	"	4	○	○	○	-	-	-	

表 7 富士宮市内において撤去された「火の見櫓」一覧

「富士講と人穴」展

人穴富士講遺跡は史跡富士山を構成する要素のひとつで、富士山の溶岩流により形成された洞穴人穴と、富士講の人々により造立された碑塔を中心に構成されます。洞穴人穴は長谷川角行が修行したとされ、江戸時代以降、富士講の人々が多く参拝に訪れました。

本展では、人穴富士講遺跡と、そこを訪れた人々について、富士宮市教育委員会が平成25年度以降に実施してきた調査の成果をもとに紹介します。



富士山と碑塔群

1 溶岩洞穴と人穴村の歴史

洞穴人穴と仁田四郎の探検

洞穴人穴は新富士火山旧期溶岩流(約 11,000-8,000 年前)に属する犬涼み山溶岩流により形成された溶岩洞穴である。溶岩流の表面が固まった後、内部の溶岩が流出したことにより形成されたと考えられている。洞穴の全長は約 83mを測る。

現在、歴史資料の中で人穴の記述を最初に確認できるのは、鎌倉時代の歴史書『吾妻鏡』である。建仁 3 年(1203)、鎌倉幕府第 2 代将軍・源頼家が富士の巻狩(大規模な軍事演習)を行った際、御家人の仁田四郎忠常に命じて人穴を探検させたという。

仁田四郎の主従は 6 月 3 日に人穴に入るが、その日は戻らず、翌 4 日に帰参した。主従は穴の中で「奇特」を見、郎従 4 人が死亡したという。また、土地の古老はこの穴は「浅間大菩薩の御在所」で、探検は恐れ多いことだと語ったという。



洞穴人穴入口

近世の人穴村

人穴は、駿河国と甲斐国を結ぶ街道(中道往還)沿いに位置しており、地名は洞穴人穴に由来すると考えられる。天正 11 年(1583)には、「人穴宿」を「不入」とする徳川家康の朱印状を受けている。

近世の人穴村は江戸幕府領で、資料によると石高は 44 石余、家数は 26 軒から 28 軒とある。元文 3 年(1738)頃までは赤池家が名主を勤めた。その後、交代で名主を勤めた時期があったが、天保 3 年(1832)には、再び赤池家が名主を勤め、万延元年(1860)まで勤め上げた。赤池家は、人穴の参拝に訪れる富士講の人々の世話をし、夏場は富士登山者でにぎわったという。



絵図に記された近世の人穴宿の様子

2 富士講のはじまりと流行

長谷川角行と人穴

長谷川角行は、戦国時代から江戸時代初期にかけて、人穴で修行したとされる行者である。

江戸時代にまとめられた伝記によると、角行(俗名 武邦)は天文 10 年(1541)に長崎で生まれ、永禄元年(1558)に初めて人穴を訪れたという。そこで角行は 4 寸 5 分四方の角材の上につま先立ち、一千日の行を行い、仙元大日神より角行東覚の名を授かったという。その後、人穴を中心に各地で大行をなし、正保 3 年(1646)に人穴で大往生を遂げたとされる。

角行の事蹟には伝説的なものが多く、事実とは考えられない部分も多い。しかし、角行が江戸時代に富士講の開祖とされたことから、人穴は富士講の聖地とされ、多くの人々が参拝に訪れる様になったと考えられる。



角行の二百回忌に造立された宝篋印塔

江戸の富士講

富士講は富士山を信仰する人々の集まりで、先達と呼ばれる人を信仰の指導者とし、月拝みや代表者による富士登山(代参登山)などの活動を行った。

人穴では、富士講が流行する前の江戸時代初期から、角行の系譜を継ぐとする修行者の活動があったとされる。しかし、富士講が庶民の間で急速に広まるのは、食行身禄が享保 18 年(1733)に富士山七合目の烏帽子岩で断食往生を遂げてからである。以降、多くの講社が組織された。

講社は富士登山の前後に角行が修行をしたという人穴にも参拝し、富士登山の記念や、先達の顕彰のため、碑塔を造立した。

富士講の現在の活動

富士講の活動は、明治時代における再編や、太平洋戦争による中断など、様々な社会的影響を受けてきた。また、戦後には生活環境の大きな変化もあり、東京都心部を中心に、多くの富士講が活動を停止した。

一方で、東京都の多摩地区や埼玉県、千葉県など、都心部の周辺地域では、現在でも富士講の活動が継続している。毎年の富士登山のほか、月拝みや星祭など、講社の所在地でも様々な活動を行っている。

また、山梨県富士吉田市で 6 月 30 日・7 月 1 日に行われる開山祭や、8 月 26 日に行われる吉田の火祭りの際には、多くの富士講が集合する。



丸嘉講田無組中里講社
(中里の火の花祭り)

富士塚と開山祭

富士塚は富士山を模して造立されたもので、富士山に登れない人でも、富士塚に登ると富士登山と同様のご利益が得られるとされた。関東地方を中心に各地で造立され、開発等により消滅したものもあるが、現在でも多くの富士塚が残されている。中には、富士山の溶岩を用いて築いたものや、各登山道や合目の表示をしたものもある。

また、一部の富士塚では、現在でも富士山の開山に合わせて富士塚の開山祭が行われる。この時は普段閉鎖している富士塚も一般客向けに開放され、多くの見物客・参拝者が集まる。



富士塚の開山祭
(下谷の富士塚、東京都台東区)

3 赤池家と人穴を訪れた人々

赤池家と富士講

富士郡人穴村に所在した赤池家では、人穴に参拝に訪れる富士講の世話をしていた。行者が休泊に利用した他、講社が洞穴周辺に碑塔を造立する際には、資金を預かり代わりに造立をするなどしていた。

また、講社に対し、洞穴内で採集した土を乾燥させ、袋に詰め「おあか」を授与していたという。これは、発熱や傷など、様々な難症に効果があったという。

明治時代以後も、赤池家は人穴で宿泊業を営み、富士講の人々を迎え入れていた。しかし、太平洋戦争中に赤池家が北山村へ移ったため、富士講との関わりは次第に薄くなっていった。



赤池家古写真(大正時代)

碑塔造立

現在の人穴富士講遺跡内には、17世紀から20世紀にかけて造立された碑塔が200基以上残されている。中には富士講とは異なる集団が造立したと考えられるものもあるが、ほとんどは富士講の人々により造立されたものである。

碑塔造立の目的は、長谷川角行など講祖や、先達の供養等を目的とするものが最も多い。また、「南無浅間大菩薩」や「富士浅間大神」と刻まれた祈願奉納碑、「富士登山六十四度」、「四十度大願成就」などと刻まれた顕彰記念碑なども存在する。

また、碑塔には様々な形態があり、中には丸嘉講のように、講としての信仰上の理由から、自然石を用いた碑塔を造立したと考えられる事例もある。



碑塔群

様々な碑塔



造立講社 山玉講
造立年 天保7年(1836)
型 式 塔身が方形で頂部が四角錐状



造立講社 丸参伊藤講
造立年 文政13年(1830)
型 式 石灯籠



造立講社 丸嘉講
造立年 不明
型 式 自然石型碑塔

現在の人穴参拝と祭礼

富士講の活動停止などにより、富士講による人穴参拝は減少した。しかし、扶桑教や富士教など、一部の講社は現在でも人穴に参拝し、祭礼を行っている。

扶桑教は明治時代に複数の富士講を取り込む形で成立し、現在は東京都に本部を置く。毎年7月、富士登山の前に人穴を訪れる。車で人穴に到着すると、先達を先頭に「六根清浄 お山は快晴」と唱えながら参道を進み、人穴浅間神社に昇殿・参拝の後、洞穴へと入り、中でオガミを行う。穴から出た後、角行の墓所とされる場所へ行き、再びオガミを行う。

富士教は現在、碑塔の前での祭礼のみを行う。



富士教の祭礼



扶桑教の祭礼

「富士講と人穴」展

期 間：平成29年7月8日～平成29年11月19日

場 所：富士宮市立郷土資料館（富士宮市宮町14-2）

問合せ先：富士宮市教育委員会 文化課（埋蔵文化財センター）

TEL)0544-65-5151 FAX)0544-65-2933

「神戸麗山と富士宮」展

神戸麗山は、江戸時代後期に京都画壇の岸派に学んだ画家である。庵原郡北松野村（現富士市北松野）出身の麗山は、京都で学んだのち郷里に帰り、大宮町（現富士宮市）にもしばしば立寄ったことが、大宮町の町役人であった角田桜岳が記した『角田桜岳日記』に見られる。二人の交流を通して、麗山が富士宮市内に残した痕跡をたどるとともに、江戸時代の富士山西南麓における地域文化の様相を紹介する。

神戸麗山

（略年譜）

年 号	西暦	年齢	事 跡
享和 2 年	1802	1 歳	9 月 23 日、庵原郡北松野村（現富士市北松野）に医者の子として生まれる。父は好吉、母はのぶ。幼名は信之、後に麟と改める。通称は内蔵之助、麗山と号した。
文化 13 年	1816	15 歳	この頃、沼津の画工大平喜慶に画を学ぶ。
文政 9 年	1826	25 歳	家を弟柳恭に譲り京都に上り、岸岱に師事する。
天保 11 年	1840	39 歳	京より帰郷し富士山周辺を遊学後、有度山麗（現静岡市清水区谷田）に住み富士の画を好んで描く。
天保 12 年	1841	40 歳	上京の折、岸岱から「白石」の名を与えられる。（命名の書に「名白石・字白石・号白石・別号麗山・天民堂・萬寿無疆・天保辛丑冬与之・同功筑前介岸岱」とある）更に「不二庵」の扁額や、清原宣明卿から「金鳳亭」の扁額を賜わる。角田桜岳が日記を付け始め、麗山との交遊がしばしば記される。
弘化 2 年	1845	44 歳	北松野の領主であった荻氏の居館絵図である「荻殿古城跡之図」を描く。
嘉永 6 年	1853	52 歳	麗山画による絵馬「巳の図」が下条日吉神社に奉納される。
安政 3 年	1856	55 歳	庭田重胤卿（権大納言）の知遇を得る。
安政 4 年	1857	56 歳	重胤卿が幣使として東下の際麗山は卿に愛蔵の富士石を贈る。
安政 5 年	1858	57 歳	重胤卿のもとめによって「富岳図」を画き贈ったところ、重胤卿はこれを孝明天皇に献じた。天皇はこの画を賞賛されたことから重胤卿より「天覽」の印章を麗山に賜わる。
万延元年	1860	59 歳	麗山画による絵馬「富士山図」が奉納される。
文久 2 年	1862	61 歳	上京して中御門家から富士亮の通称を賜わる。5 月 17 日死去。静岡市清水区谷田の東光寺に葬られる。（法名・富山麗照居士）

神戸麗山は、享和2年(1802)9月 23 日、北松野村に生まれた。家は代々医者の家系として、父好吉、母のぶの長子で、幼名を信之、通称を内蔵之助といった。麗山はその号である。初め、家業を継ぐべくしばらく医業を志したというが、生来絵が好きだったので、14、5才の頃から沼津の画工大平喜慶に就いて絵を学んだという。

文政9年(1826)、絵で身を立てようと家を弟の柳恭に譲り、京都に上ったという。当時、岸派として画名が天下に聞えていた岸駒(1749～1838)、岸岱(1782～1865)の画風を敬慕していた彼は岸岱の門をたたき画の道に入った。

岸岱の門に入って京に留り、画業を研鑽すること数年、その技が多いに進んだので帰郷し、画名が次第に郷里に広まった。その後、駿河・遠江・伊豆・甲斐の諸国を遍歴し、富士を描き続けた。その富士の絵は「麗山の富士」と称され有名となり、近国にその画名を知られるようになる。

麗山は、谷田（静岡市清水区）辺りから眺めた富士山が気に入り、一庵を結んで起居し、富士を描き続けた。その間、時折京に上り、師の岸岱を初め同門の画家達と交遊し、天保12年(1841)に上洛した際には、岸岱から白石の名を与えられている。

安政4年(1857)に、庭田重胤(権大納言)卿の知遇を受けると、そのもとめによって富岳図を画き贈った。重胤卿はこれを孝明天皇に献じたところ、天皇のお賞めにより「天覧」の印を賜ったという。

麗山は、平生酒を好み、連日痛飲することもしばしばであった。大宮町の町役人であった角田桜岳との交流もお互いが酒を好んだという点で、通じるものがあったと考えられる。しかし、その画風はいかにも壮勁で岸派の筆勢を継ぐものとして、遺作は近郷に多い。

後に、同門の山梨鶴山、柴田泰山と並び称せられ、庵原三山(鶴山・泰山・麗山)と呼ばれるなど、富士山本宮浅間大社蔵の「富士山図」をはじめ、その筆勢は高く称讃されている。

文久2年(1862)5月17日、61才で没した。静岡市清水区谷田東光寺と郷里富士市北松野に墓がある。法名を富山麗照居士という。

(正面) 館空富山麗照居士 位
 (左面) 文久二壬戌年 行年
 五月十七日 六十二歳
 (右面) 施主 駿府研屋町
 しろがね屋



神戸麗山墓
 (静岡市谷田東光寺)

(左面) 俗名 富国庵原郡北松野村 文久二壬戌年
 五月十七日
 神戸内蔵助 麗山 享年六十一歳

(正面) 富山嶺 春山嶺 妙麗也 日照英大士姉
 白山嶺 妙麗也 日照英大士姉



神戸麗山墓
 (富士市北松野)

神戸麗山と富士宮



富士山奉納絵馬「富士山図」
 (万延元年・1860 浅間大社蔵)

神戸麗山は、岸派の創始者である岸駒の長男岸岱に師事しその才能を磨いたことから、同じ庵原郡出身で同門であった山梨鶴山、柴田泰山とともに、「庵原三山」とよばれ、郷土の人々に京都の画風を伝えている。

麗山は京都で学んだのち、駿河国有度郡谷田(現静岡市)に小庵を構え作画に励む。天保12年(1841)上京の際には、岸岱から「白石」の名を与えられる。また、麗山はその後、孝明天皇に献じた画により「天覧」の印を賜っている。

一方、大宮町の町役人であった角田桜岳は、天保12年から慶応2年(1866)までの約26年間にわたり、『角田桜岳日記』を記しており、日記には桜岳と麗山が酒を酌み交わしながら富士山や周辺の話をする場面が多く見られるなど、この時期大宮町や黒田村に滞在し、好んで富士山や白糸の滝の絵などを描いていたようである。



現在、市内に残る麗山の作品には、浅間大社所蔵の富士山奉納絵馬「富士山図」や下条日吉神社の奉納絵馬、市民所蔵品などがある。また、村山興法寺三坊発行の「富士山表口真面之図」(初版)を描いていることでも知られている。

(左)「富士山表口真面之図」
(初版)興法寺三坊発行

富士山頂そんこひの蹲虎碑

富士村山池西坊が施主となって、岸岱作の虎の面の碑を頂上へ建てたことが、大宮町の町役人角田桜岳の日記に記されている。

裏面には『富士山記』の一文が刻されている。(『本朝文粹』卷十二)平安時代前期の漢詩人・都良香の文章。富士山頂の風景が描かれており、作者自身が登山したか、あるいは実際に登山した者から聞いた話が元になっていると考えられている。

その文中に、「富士山頂は平らになっており、中央は窪んでいる。窪みには虎がうずくまった形の大岩がある。窪みからはいつも蒸気があがっている。」という記述がある。



富士山頂の蹲虎碑

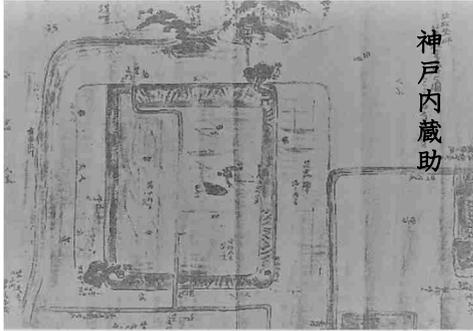
「角田桜岳日記」
天保一三年(一八四二)八月九日条

翻刻
保之助咄し候者、村山方不二頂上へ建候蹲虎碑も一昨日十一日目二而無難ニ登り候よし、右碑の上ヶ方一合目方宝永山南西の方へ出し、夫より真直ニ二合目迄為登、胸付ニ懸候処、こゝは最初方皆々六ヶ敷可有之存候ところ、一番らく／＼と登り候よし、胸付つきハ千鳥に身からすら登り候ところ、直ニ登り、上ニ而馬の荷縄又は細引なとつけ引候処、人足十六人は只石の台のやうに成、かたへのせ候計りニ而上ニ而引、下よりハおしあけ候ニ随ひ足をはこび候処、何の苦もなく上り、直様頂上へ建、一同下山いたし候よし承る

解説
蹲虎の碑を富士山頂へ引き上げた時の様子を記す。碑は一合目から宝永山の南西へ出、そこからまっすぐに九合目まで登ったという。胸付(胸突八丁)は難所だが、千鳥に登るところまっすぐに登り、一番楽々と登ったと記されている。

神戸麗山の作品

展示している麗山の作品 13 点それぞれには、『麗山』の号が書かれている。ただ、弘化2年(1845)に郷里北松野の領主であった荻氏の居館を描いた絵図である「荻殿古城跡之図」は、画号である麗山ではなく、本名の「神戸内蔵助」とあり、画業を越える縁を込めたものとも受け取れる。麗山は好んで富士山を描いていることから、その作品数も多い。今回、展示している富士山の画は5点である。万延元年(1860)富士山に奉納された「富士山図」、麗山の墓がある静岡市清水区谷田の東光寺に残る「富士山図」、村山三坊蔵版の「富士山表口真面之図」、嘉永5年(1852)に描かれた「富士山図」、富士と鶴を秀麗に纏めた「富士浮島沼之図」の5点である。これらの署名には、『麗山(印)』、『麗山麟(印)』、『麗山



「萩殿古城跡之図」
弘化2年（1845）

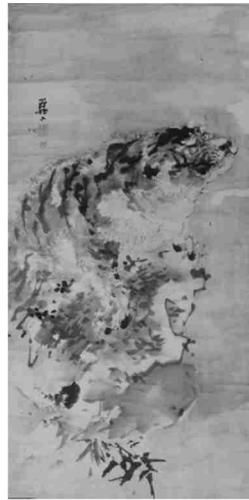
白石(印)』という使い分けがみられる。

鳥獣画では、『虎』の画が2点、『巳(蛇)』が2点、『龍』が1点、『鶴』(前出「富士浮島沼之図」)1点を展示している。麗山はまた、白糸の滝も好んで描いており、東光寺蔵の「白糸の滝図」は写生をもとにした実景図である。

神戸麗山の作品



「釈迦涅槃図」
文政11年（1828）2月仏滅日 画
（富士市北松野妙松寺蔵）
落款「麗山神戸驩写」



「虎の図」



「龍の図」

（富士宮市立郷土資料館蔵）

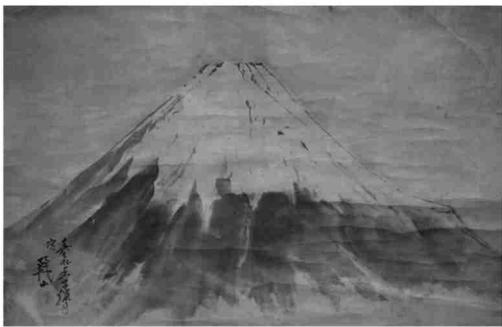


「富士山図」
製作年不明（静岡市谷田東光寺蔵）
落款「麗山麟」

賛文「ふじのねは雲よりうへに あら
はれてゆきの光も神さびにけり
／季知詠」



「白糸の滝図」
製作年不明（静岡市谷田東光寺蔵）
落款「富麓素絲泉 麗山写」



「富士山図」
嘉永5年（1852）画
（四條洋成氏蔵）落款「麗山」



「日吉神社の奉納絵馬」
嘉永6年（1853）6月
奉納者 四條三郎左衛門
（下条日吉神社蔵）落款「麗山芙」



「富士山図」天覧印捺
製作年不明（須藤秀忠氏蔵）
落款「芙蓉楼」



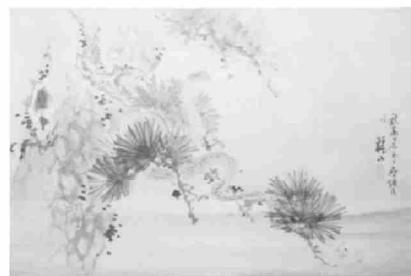
「富士山図」天覧印捺
製作年不明（望月豊己氏蔵）
落款「芙蓉楼」



「富士浮島沼之図」
（遠藤秀男旧蔵資料）
落款「麗山驂」



「萬歳図」
（遠藤秀男旧蔵資料）
落款「麗山驂」



「日ノ出に松」
（遠藤秀男旧蔵資料）
落款「麗山」

角田桜岳と神戸麗山の交流

角田桜岳は書画骨董を好み、北松野村に生まれた画家の神戸麗山を寄宿させている。桜岳は文化12年(1815)4月22日生まれ、麗山は享和2年(1802)9月23日生まれということで、二人の間には13歳の年齢差があることになる。桜岳日記には、麗山のことを『麗山子』と表記するのが最も多くみられる。これは、日記の開始時期である天保12年頃、麗山はすでに駿河国では著名な画家であったことから、尊敬の意味と年長者への敬慕の念が随所にあらわれている。とくに、桜岳と麗山が酒を酌み交わしながら、書画の話、富士山や曾我の話をする場面などが多く見られるのは、年齢差以上に近しく感じる友情が垣間見えてくるのである。



角田桜岳肖像画
(角田利夫氏所蔵)



角田桜岳日記

天保13年5月29日の条には、「夕方麗山子来り、祖父祖母様画像・母様画像等心懸置認メ呉候様頼ミ」とあるなど、桜岳の家族ぐるみの親交があらわされている。麗山はこの時期大宮町や黒田村に滞在し、好んで富士山や白糸の滝の絵などを描いていたようで、大頂寺や桜岳の家などのふすま絵を描いている。

「角田桜岳日記」
嘉永元年(一八四八)四月一日条

翻刻
……様くわしく申遣ス、尚白糸滝の画・曾我殿滝の画麗山氏認候を、河津家へとつけ呉候様申遣ス也、式枚入用凡二百疋余也

解説
麗山が描いた白糸滝(白糸ノ滝)、曾我殿滝の絵を河津家へ届けたことが記される。曾我殿滝は現在の音止めの滝にあたりと考えられる。

「角田桜岳日記」
天保一三年(一八四二)五月十九日条

翻刻
又岸岱虎の面の碑此度不二頂上へ建ル処、彫刻人全体江戸か京都方参り可申之処、参り不申ニ付、乙吉ミかきより取懸り、此節画の方へ懸、七分彫上ケ候由、乍去この雨天にて紙しめり彫候事不相成ニ付、天气迄下り候由也

解説
蹲虎の碑(岸岱虎の面の碑)の製作の様子を記す。彫刻人が江戸か京都から来るべきところ、来ないので、乙吉という石工が製作に取り掛ったことや、このころに絵の彫刻に取り掛り、七割方出来上がった様子を確認することができる。

「角田桜岳日記」

弘化四年（一八四七）一〇月一三日条

翻刻

麗山柚野の石工をつれ一泊し、今日岩本へ参り候よし、兩人とも参候ハ京都岸岱かたへ遣候ものを不二川川役人へ頼ニ参候よし也

解説

麗山が柚野の石工をつれて一泊し、翌日岩本へ行き、富士川川役人を頼って京都の岸岱へ贈り物をしていた様子が記される。麗山と岸岱との交流を示す記録。

「角田桜岳日記」

弘化五年（一八四八）正月四日条

翻刻

一終日二階ニ而麗山子画を認候を見る、八ツ頃柚野石工勝蔵来る、又石工安蔵来る、かれわれ方ニ無義理あるものゝ処いろ／＼わびいたしつれとも、われ不聞かれ帰る、勝蔵吾坐敷の二階へ通しくれ候様願候故通す、かれハ石工なから幅ものなど好候もの也、麗山兩人ニ而酒とふべる、夜二階下ニ而咄し又更て中居ニ而泊す、

解説

麗山と桜岳の交流に関する記録。桜岳が一日二階で麗山が絵を描く様子を見学していたことや、麗山らと酒を飲む様子が記される。

角田桜岳日記には、この他にも桜岳と麗山が酒を酌み交わす様子がしばしば記されている。



角田桜岳邸周辺図(明治初年の大宮町地図より)

「神戸麗山と富士宮」展

期 間：平成29年12月9日～平成30年3月25日

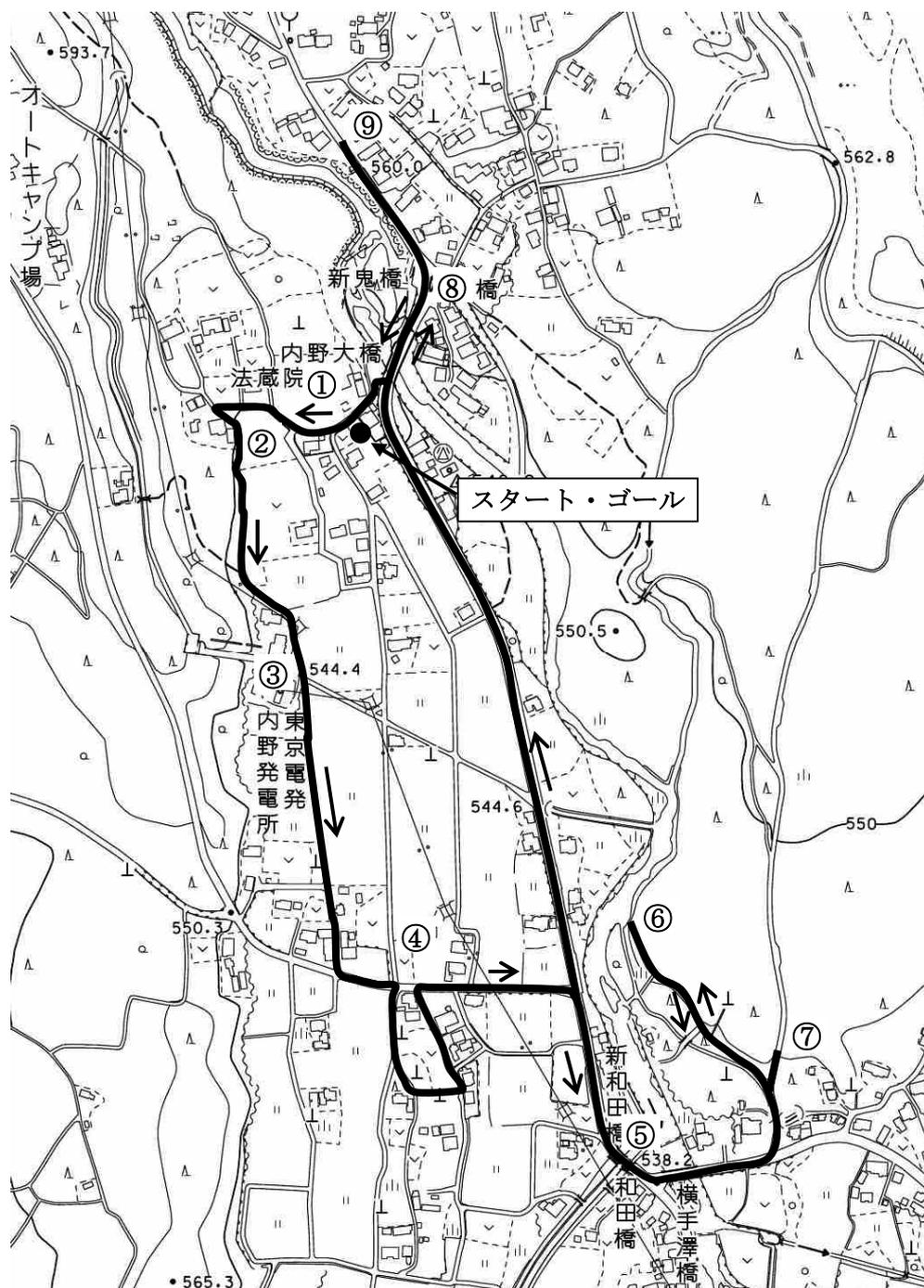
場 所：富士宮市立郷土資料館（富士宮市宮町14-2）

問合せ先：富士宮市教育委員会 文化課（埋蔵文化財センター）

TEL)0544-65-5151 FAX)0544-65-2933

火伏念仏と内野区の歴史をめぐる

スタート → ① 法蔵院 → ② 内野北谷戸の道祖神 → ③ 内野の発電所 →
④ 内野神社 → ⑤ 横手沢分流ゲート → ⑥ 北山用水取入れ口 →
⑦ 石造物 → ⑧ 鬼橋 → ⑨ 内野の火伏念仏 → ゴール (約4 km)



【問合せ先】

富士宮市教育委員会事務局 教育部 文化課埋蔵文化財センター
電話 0544-65-5151

(1) 富士宮市文化財保護審議会委員及び富士宮市立郷土資料館運営協議会委員

任 期 平成 29 年 9 月 1 日から平成 31 年 8 月 31 日まで

根拠法令等 富士宮市文化財保護条例第 45 条第 2 項

	氏 名	分 野
会 長	植松 章八	考古・史跡
副会長	北垣 俊明	天然記念物（地質・鉱物）
委 員	芦澤 幹雄	地域史
委 員	小川 只道	重要文化財管理（大石寺）
委 員	川名 義博	重要文化財管理（北山本門寺）
委 員	鈴木 雅史	重要文化財管理（富士山本宮浅間大社）
委 員	建部 恭宣	建造物
委 員	松田 香代子	民俗・無形民俗文化財
委 員	山口 裕嗣	重要文化財管理（西山本門寺）
委 員	渡井 正二	民俗・古文書
委 員	渡邊 定元	天然記念物（植物）

富士宮市立郷土資料館条例第 6 条第 3 項

(2) 史跡富士山整備委員会委員

	氏 名	役 職 等	分 野
委員長	坂詰 秀一	立正大学名誉教授・元学長	考古学
副委員長	田中 哲雄	元東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科教授 姫路市日本城郭研究センター名誉館長	造園学 遺跡整備
委 員	建部 恭宣	富士宮市文化財保護審議会委員 元富士山世界文化遺産静岡県学術委員会委員	建築学
委 員	谷川 章雄	早稲田大学人間科学学術院長	考古学
委 員	中村 羊一郎	静岡産業大学総合研究所客員研究員 元富士山世界文化遺産静岡県学術委員会委員	民俗学
委 員	渡井 正二	富士宮市文化財保護審議会委員 元富士山世界文化遺産静岡県学術委員会委員	近世史 民俗学

(3) 名勝及び天然記念物「白糸ノ滝」整備委員会委員

	氏名	役職等	分野
委員長	渡邊 定元	元東京大学教授 φ 森林環境研究所長	生態 環境
副委員長	天野 光一	日本大学理工学部教授	景観工学
委員	池邊 このみ	千葉大学園芸学部教授	景観論 環境計画
委員	佐野 貴司	国立科学博物館地学研究部鉱物科学研究グループ長	地質学 岩石・鉱 物・鉱床学
委員	関 文夫	日本大学理工学部教授	土木工学
委員	渡井 正二	富士宮市文化財保護審議会委員 元富士宮市世界遺産関連学術調査指導員	近世史 民俗学

(4) 史跡大鹿窪遺跡整備基本計画策定委員会委員

	氏名	役職等	分野
委員長	向坂 鋼二	前静岡県考古学会会長	考古学
委員	遠藤 克実	大鹿窪区区長	地域代表
委員	北垣 俊明	富士宮市文化財保護審議会副会長 奇石博物館副館長	地質学
委員	小林 謙一	中央大学文学部教授	考古学
委員	篠原 和大	静岡大学人文社会科学部教授	考古学

※平成30年3月31日現在（委員・役職名等）

※委員は五十音順

富士宮市内指定文化財等一覽

(平成 30 年 3 月 3 1 日現在)

国指定文化財 (21 件)

種別	文化財の名称	所在地	所有者(管理者)	指定年月日
重要文化財・建造物	富士山本宮浅間神社本殿	宮町	富士山本宮浅間大社	明 40. 5. 27
〃 ・ 〃	大石寺五重塔	上条	大石寺	昭 41. 6. 11
〃 ・ 絵画	絹本着色富士曼荼羅図	宮町	富士山本宮浅間大社	昭 52. 6. 11
〃 ・ 工芸品	太刀(銘南无薬師瑠璃光如来/備前国長船住景光)	宮町	富士山本宮浅間大社	明 45. 2. 8
〃 ・ 〃	脇差(銘奉富士本宮源式部丞信国/一期一腰心永廿四年二月日)	宮町	富士山本宮浅間大社	〃
〃 ・ 〃	太刀(銘吉用)	上条	大石寺	大 12. 3. 28
〃 ・ 書跡典籍	法華經(常子内親王筆)	西山	西山本門寺	昭 24. 2. 18
〃 ・ 〃	紺紙金字法華經(開結共)	西山	西山本門寺	〃
〃 ・ 〃	貞観政要卷第一(日蓮筆)	北山	北山本門寺	昭 27. 7. 19
〃 ・ 〃	細字金字法華經(藍紙)	北山	北山本門寺	昭 29. 3. 20
〃 ・ 古文書	法華證明鈔(日蓮筆)	西山	西山本門寺	昭 27. 7. 19
〃 ・ 〃	日蓮自筆遺文	上条	大石寺	昭 42. 6. 15
〃 ・ 〃	日蓮遷化記録(日興筆)	西山	西山本門寺	平 5. 1. 20
特別名勝	富士山	二合目以上他	(富士宮市他)	昭 27. 11. 22
特別天然記念物	狩宿の下馬ザクラ	狩宿	個人(富士宮市)	昭 27. 3. 29
〃	湧玉池	宮町他	富士山本宮浅間大社他	〃
史跡	千居遺跡	上条	大石寺	昭 50. 6. 26
〃	大鹿窪遺跡	大鹿窪	富士宮市	平 20. 3. 28
〃	富士山	八合目以上他	(富士宮市他)	平 23. 2. 7
名勝・天然記念物	白糸ノ滝	原・上井出	(富士宮市)	昭 11. 9. 3
天然記念物	万野風穴	山宮	(富士宮市)	大 11. 3. 8

県指定文化財 (24 件)

種別	文化財の名称	所在地	所有者(管理者)	指定年月日
建造物	西山本門寺本堂厨子	西山	西山本門寺	昭 29. 1. 30
〃	富士山本宮浅間大社社殿	宮町	富士山本宮浅間大社	〃
〃	大石寺御影堂	上条	大石寺	昭 41. 3. 22
〃	大石寺三門	上条	大石寺	〃
絵画	富士浅間曼荼羅図	宮町	富士山本宮浅間大社	昭 56. 10. 23
工芸品	脇差(銘出羽大掾藤原国路)	大中里	個人	昭 37. 6. 15
〃	青磁蓮弁文大壺	宮町	富士山本宮浅間大社	昭 52. 3. 18
〃	青磁浮牡丹文香炉	宮町	富士山本宮浅間大社	〃
〃	人形手青磁大茶碗	宮町	富士山本宮浅間大社	〃
〃	鉄板札紅糸威五枚胴具足	宮町	富士山本宮浅間大社	〃
書跡典籍	万暦本一切経	上条	大石寺	昭 52. 3. 18
〃	重須本曾我物語	北山	北山本門寺	昭 53. 10. 20
無形民俗文化財	富士宮囃子	宮町他	富士宮囃子保存会	平 7. 3. 20
天然記念物	村山浅間神社の大スギ	村山	村山浅間神社	昭 31. 5. 24
〃	西山本門寺の大ヒイラギ	西山	西山本門寺	〃
〃	北山本門寺のスギ	北山	北山本門寺	昭 32. 5. 13
〃	大晦日五輪のカヤ	内房	個人	昭 40. 3. 19
〃	村山浅間神社のイチョウ	村山	村山浅間神社	昭 43. 7. 2
〃	上条のサクラ	上条	個人	〃
〃	富士山芝川溶岩の柱状節理	羽鮒	個人	昭 59. 3. 23

種別	文化財の名称	所在地	所有者（管理者）	指定年月日
天然記念物	猪之頭のミツバツツジ	猪之頭	個人	昭 60. 11. 29
〃	大晦日のタブノキ	内房	個人	昭 62. 3. 20
〃	芝川のポットホール	下柚野	（富士宮市）	平 7. 3. 20
〃	精進川の大カシワ	精進川	個人	平 29. 3. 24

市指定文化財（37件）

種別	文化財の名称	所在地	所有者（管理者）	指定年月日
建造物	平等寺の三門	東町	平等寺	昭 60. 3. 11
〃	井出家高麗門及び長屋	狩宿	富士宮市	平 7. 3. 16
〃	妙蓮寺5棟	下条	妙蓮寺	平 23. 5. 24
〃	上稲子八幡宮の厨子	上稲子	八幡宮	平 25. 6. 20
〃	龍興寺の厨子	内房	龍興寺	〃
〃	芭蕉天神宮本殿	内房	芭蕉天神宮	〃
絵画	天象の図	村山	村山浅間神社	昭 55. 1. 11
〃	太郎坊権現の図	村山	村山浅間神社	〃
〃	阿字曼陀羅	村山	村山浅間神社	〃
〃	伝末代上人画像	村山	村山浅間神社	〃
彫刻	大日如来坐像（胎藏界）	村山	村山浅間神社	昭 57. 8. 23
〃	大日如来坐像（金剛界）	村山	村山浅間神社	〃
〃	大日如来坐像（胎藏界）	村山	村山浅間神社	〃
〃	役行者倚像	村山	村山浅間神社	〃
〃	不動尊像	村山	村山浅間神社	〃
〃	隨身像	宮町	富士山本宮浅間大社	平 5. 5. 25
工芸品	伝源義助作大薙刀	宮町	富士山本宮浅間大社	昭 40. 5. 10
〃	弥陀観音勢至の軸（阿弥陀三尊雲越之来迎図）	上柚野	延命寺	平 24. 5. 24
書跡典籍	後陽成天皇宸翰	宮町	富士山本宮浅間大社	昭 40. 5. 10
〃	外国語（英・蘭）辞書類一括	中央町	個人	昭 63. 4. 15
古文書	袖日記	大宮町	個人	昭 60. 3. 11
考古資料	三連甕形土器	黒田	個人	昭 55. 1. 11
〃	安養寺の土偶	杉田	安養寺	昭 57. 8. 23
〃	駿州富士郡二股村石経塚	栗倉	個人	昭 63. 4. 15
〃	銅造虚空蔵菩薩像懸仏	宮町	富士山本宮浅間大社	平 29. 5. 18
無形民俗文化財	火伏念仏	内野	火伏念仏保存会	平 11. 1. 26
〃	富士山本宮浅間大社流鏝馬	宮町	富士山本宮浅間大社流鏝馬保存会	平 18. 9. 8
史跡	大室古墳	小泉	（上小泉八幡宮）	昭 60. 3. 11
〃	中野梅市建立の句碑	黒田	本光寺	〃
〃	虚空蔵社古墳	西小泉町	個人	平 5. 5. 25
天然記念物	大宮縄状溶岩	元城町	富士宮市	昭 44. 4. 1
〃	フジキクザクラ	上条	大石寺	昭 57. 8. 23
〃	中央町のカヤ（カヤの木）	中央町	個人	〃
〃	猫沢のカシワ	猫沢	個人	平 26. 4. 30
〃	西山本門寺のシダレマキ	西山	西山本門寺	〃
〃	寛妙寺のイヌマキ	内房	（橋上町内会）	〃
〃	平野のエドヒガンザクラ	羽鮒	平野町内会	平 29. 5. 18

国登録有形文化財（1件）

種別	文化財の名称	所在地	所有者（管理者）	登録年月日
建造物	吉澤家住宅煉瓦蔵	宮町	個人	平 27. 3. 26

人穴富士講遺跡 溶岩洞穴「人穴」入洞予約受付について

人穴富士講遺跡案内（溶岩洞穴「人穴」入洞）予約受付について（平成30年7月9日より受付開始）

遺跡内案内概要

碑塔群及び洞穴「人穴」のガイドです。

【案内可能日】

土・日・祝日

【案内時間】

①午前10時00分～

②午前11時00分～

③午後1時00分～

④午後2時00分～

【定員】

各時間帯ごと定員20名

【予約開始日】

案内希望日の一ヶ月前

【入洞に関する制限】

- ・年齢制限 小学生以上
(未成年者は保護者同伴)
- ・雨天時は入洞できません。
- ・階段・歩道が凍結する恐れがあるため、12月1日～2月28日(気候条件により変更あり)は入洞できません。
- ・洞穴内は足場が悪いため、補助具なしで歩行ができ、階段の昇降、腰を屈めての歩行ができる方に限ります。

案内予約方法

【予約受付日】

月曜日～金曜日(祝日を除く)

【受付時間】

午前9時～正午、午後1時～午後4時

【受付締切】

定員に達した時点、または、入洞日の直前の木曜日(祝日の場合はその前日)まで

【注意事項等】

- ・ガイド時間は1時間程度です。
(洞穴内案内時間は、20分程度です。)
- ・一度に入洞できる人数は10名程度です。
- ・予約時間の10分前には、人穴富士講遺跡案内所前にお集まりください。
- ・ご予約の時間どおりにご案内出来ない場合があります。

※安全確保のため、気象状況等の理由で、当日急遽入洞制限が行われる場合がございます。当日の状況により判断されますので、当日現地にてご確認ください。か、人穴富士講遺跡案内所(電話：0544-52-1620)へ直接お問い合わせください。



人穴入口

【予約方法】

- (1) 富士宮市役所6階 文化課窓口
- (2) 電話 0544-22-1187

※FAX、メールでの予約は不可。

【入洞料金】

無料

※入洞予約をキャンセルする場合には、予約日の2日前まで(祝日の場合はその前日)は文化課(電話：0544-22-1187)へ、または、当日に直接人穴富士講遺跡案内所(電話：0544-52-1620)へご連絡ください。

1. 注意事項が守れない場合は、入洞をお断りする場合があります。
2. 案内中の事故・負傷につきましては責任を負いかねますので、十分ご注意の上、お申し込みください。

注意事項

- ・現地ガイドの同伴なしでの入洞はできません。
- ・現地ガイドの案内に必ず従い入洞してください。
- ・服や靴が汚れる場合がありますので、汚れてもいい服装・履物でおこしてください。かかとのない靴(サンダル等)での入洞はご遠慮ください。
- ・足元が大変滑りやすくなっておりますので、ゴム底などの滑りにくい履物でおこしてください。
- ・安全のため、ヘルメットの着用が必要です。現地でヘルメットを貸し出しておりますので、必ず着用し、入洞終了後にご返却ください。子供用ヘルメットにつきましては、ご用意しておりませんのでご持参ください。
- ・洞穴内に照明はございません。現地でヘッドライトを貸し出しています。入洞終了後にご返却ください。
- ・洞穴内は足場が悪いため、補助具なしで歩行ができ、階段の昇降、腰を屈めての歩行ができる方に限ります。
- ・予約された場合でも、前日または当日の天候状況によって、急遽入洞制限が行われる場合があります。

また、当日が晴天の場合でも、雨天後は洞穴の中に水がたまる場合がありますので、入洞制限が行われる場合があります。ご了承ください。

※事前にご連絡はできませんので、当日に直接人穴富士講遺跡案内所(電話：0544-52-1620)へお問い合わせください。案内所は土・日・祝日(12月29日～1月3日除く)のみ開館しています。

- ・ペットの同伴はできません。
- ・洞穴内では火気厳禁・飲食禁止です。
- ・見学者の不注意や注意事項違反により発生した事故・負傷につきましては、責任を負いかねますので、十分ご注意ください。

お問い合わせ(平日)

富士宮市教育委員会 教育部 文化課 学術文化財係
〒418-8601 静岡県富士宮市弓沢町150番地(市役所6階)
電話番号：0544-22-1187
ファックス番号：0544-22-1209
メール：e-bunka@city.fujinomiya.lg.jp

お問い合わせ(休日・祝日)

人穴富士講遺跡案内所
(10:00～15:00)
電話番号：0544-52-1620

※平成31年3月現在の予約方法です。最新の予約方法についてはホームページでご確認ください。

富士宮市文化財年報 第8号

平成31年3月29日

編集 富士宮市教育委員会

発行 富士宮市教育委員会

静岡県富士宮市弓沢町150番地

電話 (0544) 22-1111(代)

印刷 株式会社きうちいんさつ